



20年目のきょうも、
人と地球にやさしいアクション!

共生の時代

'09
3月

●発行:グリーンコープ共同体育理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



講師 高木 美保さん

1962年東京都葛飾区生まれ。1984年映画デビュー後、ドラマ、バラエティなど、さまざまなテレビ番組で活躍。1998年栃木県那須高原での自然豊かな生活をはじめ。自給自足を目標に、有機無農薬野菜作りなど農業にも取り組む。田舎暮らしから得た経験をもとに、自然問題、環境問題など身近な視点で講演や執筆業など幅広く活躍中

グリーンコープ生協ふくおか主催のグリーンコープ誕生20周年記念講演会が高木美保さんを講師に開催されました。組合員など503人が参加し、話に聞き入りました。講演の要旨を紹介します。

併せて、大地を守る会広報室長・100万人のキャンドルナイト事務局の大野由紀恵さんが「100万人のキャンドルナイト」について案内しました。

グリーンコープ生協ふくおか 20周年記念講演会

2008年12月14日
福岡市

自然がくれた

人間力

エコブームに 翻弄されてはいけない

最近エコバッグを持つ人が増えています。ごみを減らすためによいことですが、ちょっと待てよという現象も起こっています。エコバッグをいくつも買い集めたり、ブームになってブランド物まで出現!こんなことにエネルギーをかけてしまうのは果して「エコ」なの?

先日、省エネのためにハイブリッド車に買い換えました。しかし、燃費がいいからといってどんどんドライブしてしまつたら、ガソリン消費は減りません。しかもこのハイブリッドカーを作るための原料「レアメタル」のほとんどは中国に依存し、この原料

を得るために生産地域では土壌汚染という実態も明らかになっています。エコブームの裏でむしろ環境破壊が起こっています。

「自然にやさしい」が謳い文句の「パームヤシを使った台所せっけん」。その原料のヤシ油を得るために熱帯ジャングルを伐採し生物の多様性を脅かしています。また、CO₂排出権が売買取引されていること、穀類がバイオ燃料の原料になりトウモロコシを主食としていた貧しい人たちが飢えていることなど、さまざまな問題が起きています。うかつにブームに惑わされないことが大切です。

自然の豊かさが生命をつくります。人口爆発、食料不足、エネルギーや水の枯渇、温暖化などいろいろな問題についてバランスよく考える知恵が必要です。

食べる喜びを知らない 子どもたち

「お母さんが作ったことないよ、コンビニでは買ったことあるけど」と民宿で出された味噌汁を「はじめて食べた」と言う高校生。仕事に追われ、太っているのに栄養失調で倒れてしまう若いスタイリストの女の子。食べることを親からの押し付けと思いついで「食べるのが面倒くさい」と言う若者。最近こんな若い

人たちの話をよく耳にします。私は、食べる喜びを知らない子どもたちに、農業をとおして伝えたいと思うようになりました。

畑が教えてくれること

栃木県的那須で田畑を耕すようになって、東京の友人の子どもたちに声をかけて田んぼや畑で生命とのふれあいを体験してもらっています。虫よけといえは木酢液くらい。私はキャベツ10個のうち3個は虫さん用と割り切ります。蝶になる青虫はまだかわいいけど、ヨトウムシはグロテスクで、子どもたちは「殺してえ」と泣きべそをかきます。そこで、自分たちにどれだけ

「かわいそうだから半分にしとくよ」としばらく考えて、ある子どもが言い出した。虫さんに半分上げるそうです。あまりにもかわいいことを言うので抱きしめてしまいました。

不登校の子が田んぼにきたことがありました。裸足で田んぼに入ると生温な泥の感触に子どもは「気持ちがいい」と喜び、泥んこも平気です。田んぼの中にはカエルやアメンボなど生きものがたくさん。いろいろな生きものがいて、そしてやがて死んで土に戻る。水を抜いた田んぼには干からびた生きものが現われます。たくさん生きものを犠牲にして私たちは食べる

のを得ています。田んぼでの経験は食べものは生きものであること、そして食べる喜びを子どもにも実感させてくれます。こうやって田んぼの生きものが自分とつながっていることを知ります。

コメが実りました。その子は自宅のお隣りの方におす分けし、「こんなおいしいお米、おじさん食べたことがない」とほめられたそうです。その子はその言葉がほんとに「うれしかった!」。

食べることは喜びです。食べることは生きることです。これが自然がくれる「生きる力」だと思います。

100万人の キャンドルナイト

大地を守る会広報室長
大野 由紀恵さん



「でんきを消して、スローな夜を」。毎年、夏至と冬至の日、夜8時から10時、でんきを一斉に消して、ろうそくを灯し、スローな時間、地球の未来に思いを馳せる時間を楽しもう、という環境文化運動が「100万人のキャンドルナイト」です。自宅で家族と共に食事をしたり絵本を読んだり、ひとりでキャンドルを浮かべたお風呂に入ったり、友だちと一緒に集まってコンサートなどのイベントを開いたり、と参加方法や楽しみ方はいろいろです。主旨も原発、戦争反対などさまざま。各自がいろいろに参加し、楽しみながら一定の時間を共有する、多様性と一体感の、自発性を重んじるムーブメントです。みなさんも楽しみながら参加してみませんか。

Contents

グリーンコープを創った人たち(12) グリーンコープ連合初代専務理事 行岡 良治	
人間の可能性を信じる	2
…徳島県の旧木頭村・ダム建設を止めた過疎の村の物語…	
水を、森を、自然を、人と人の絆を守った	3
度島の漁師さんたちが獲った魚を食べようよ	
～度島(長崎県平戸市)の漁業を応援することが日本の漁業を応援することにつながります～	
40万人組合員食べものアンケート報告会	
回収率83.1%! みんなの力で グリーンコープの食べもの運動がすすむ	5
40万人組合員食べものアンケート	
組合員による組合員のための 食べもの運動のさらなる深化にむけて	6・7
2008年度 脱原発学習会	
あまりにも無謀な原発	8
グリーンコープ生協(島根)くらしの見直し講演会	
らくらく家計簿のススメ	9
メーカー・生産者からのメッセージ(11) ドンパル堂	
安心・安全を求め、 30年間国産小麦パンを焼き続けた	10
福祉委員会学習会 ホームを失ったあらゆる人たちのため「ホーム」を創る	
グリーンコープがめざす生活協同組合®	11
組合員・ワーカーズ・職員リレーメッセージ	
未来へつなぐ20年 私の思い	12

20年の歴史を創った原点に戻る



グリーンコープの前身生協が相次いで産声をあげはじめて40年、グリーンコープ結成から20年経過した2008年10月、グリーンコープの組合員数はついに40万人を超えた。時間はまちがいに人間を成熟させ、グリーンコープの現在はその豊かな実りの姿である。

一方で、どのような運動も最初に「切り開く人」がいてはじまる。グリーンコープ運動には行岡良治がいた。彼は武田桂二郎に導かれ、一時期は兼重正次と共にひた走り、今なお人間の集団としてのグリーンコープを開拓する。



グリーンコープ連合初代専務理事
行岡 良治

人間の可能性を信じる

戦

中派であった武田が柳川で文学活動を楽しんでいた40歳前、行岡は高校生だった。ようやく長年の精神の苦痛から解放されようとしていた。

行岡は親の生業に向ける社会の残酷な視線に傷つき、憎悪をたぎらせ続けていた子どもだった。そのため、勉強しなくても成績がいいという天才肌にもかかわらず、その天分をまっすぐ表現できず荒んでいた。高校にしても進学する理由を見つけ出せずにいたが、自分を大切に育ててくれた母親が喜ぶというその理由だけで行くことを決めたほどだ。

その春に彼の友人のうち半分は就職し、半分は高校へ行った。進学校へ進んだのは行岡だけだった。1947年生まれ、行岡は、芋の子を洗うような環境で学齢期を過ごしていたが、10代半ばですでに鋭く突出し、首領の風貌を漂わせているという生徒だった。

「夢」の萌芽
1960年代末は、多数の学生が大学の民主化運動に参加した政治の季節。熊本大学に進んだ行岡の前にも大学生協という運動の場が開けていた。だが、「協同する」という善行的なイメージがつかまとう大学生協にはどこか抵抗を覚えた。これは団塊世代に共通

した感覚だが行岡は特に敏感だった。善いことをしていると標榜する集団・組織というのは、結果的に人間を不幸にすると思覚レベルで感じていた。

ところが大学生協は一旦かわってみると、そこでの人間関係は利害がからまらずとも心地良いものだった。同じ肌合い、人間と人間がまっすぐに会おうことで育まれる幸福感に行岡は強く惹かれていく。



共生・平和長崎自転車隊を応援する行岡さん

「善き行い」に人一倍鼻白む当時の行岡は、生協という看板は嫌いだ、人間関係は好きという矛盾する気持ちを持っていた。その後も続く生協運動の第一歩を踏み出していった。

実際、行岡は大学生協時代からグリーンコープに至るまで常に集団のリーダーであり、組織の青写真を作る役目を担った。しかし、作成段階でこたわり続けたものはどうすれば人間が自由に幸福に生きることができるとかという観念的なテーマであった。

「わがまま路線」の遺産
組織というものは一旦生まれると、原初がどのようなであろうとも社会のありように倣って生き物のように

どんどん権力構造を作っていく傾向にある。1970年代末、行岡の共生社生協は、それに抗えず混沌のきわみに達していた。かつて願った「人間がまっすぐに関係しあえる、この世のどこにもないような組織を作りたい」という夢が現実になり、組合員組織はともすれば生協の発展の道具にされがちだった。それでは何のために生協を作ったのか分からない。

行岡は決意する。職員組織については一旦権力構造を作る。それと対関係に組合員組織に対しては、「生協ごときのために一生懸命になるのはやめて自分自身のために生きてほしい」と要請した。それが今も語り継がれる「わがまま路線」の発動だった。人間が自分を解放する喜びを、まず組合員組織に感じてほしいと考えたのだ。

わずかなが生協から活動資金は出る。それでいて生協という枠は外され、まったく自由に活動できるというのだから組合員は放たれた鳥のようになり、一時期

は溢れんばかりに活動が活性化していく。しかし、「わがまま路線」というのは、一個人のうちに生協の組合員であるという縛りと、生協のために活動するなという相反する縛りを抱え込ませる。やがて組合員活動は迷走していく。例えば、生協祭りでカレーを作るとき、安いからという理由で競合生協のカレーを使うってカレーを作るといふようなことも起きた。当然、集団としての目標も見失われていく。「わがまま路線」は反省され1985年に店じまいとなった。

敗北感だけが残されたように思えた。だが違った。組合員はわがまま路線の数々の間、何ともいえない世界を体験するうちに、生協を客観的に見る目を自らの内に育て、ある種のしたたかさとしなやかさを獲得していた。

行岡は悟る。国家であろうが生協であろうがそのようなものとはかわりなく、人間は誰でも幸福を求めて自分を生かしたいという欲望に忠実に生きる。だが、自分を真に生かすため

には、結局互いに生かしあうしかない。行き着く先が協同である。その順序が大切なのだ。自分のために生きようとする協同は強化されるということになる。

1988年に共生社とちくれんはグリーンコープを結成するが、片方にそうした感性が集団として存在していたことはグリーンコープという新生集団の色合いを決める要素となった。

今も夢の途中

「グリーンコープ結成は『飢餓(ひもじい)同盟』だった。結婚しなければもう食べていけないというところまで双方とも追い詰められていた。どちらもせつけん派であり基本的な考え方も同じだったが、表れ方はまったく異なっていた。でも結果的にはそれがよかった。お互いの良さを学びあい葛藤を克服してグリーンコープは本当に豊かな集団になった」。結成20年後の行岡の感慨である。

グリーンコープの組合員が集う時、そこで交わされる会話がお互いを尊重しあうものであれば、その場の空気は柔らかなものになるだろう。誰もがその輪の中にいたいと願うだろう。組合員40万人とはその空気を嗅ぎ取った人たちが支えあいながら、地域で生を営むその風景そのものなのだ。

予想される未来は決して明るいものではない。しかし、人間は成熟に向かつて深化し続けるということを考えると、それは間違いなく希望である。行岡はその人間の可能性を信じ続けてここまで来た。

水を、森を、自然を、 人と人の絆を守った

…徳島県の旧木頭村
ダム建設を止めた
過疎の村の物語…

徳島県の旧木頭村は今から30年前、国が推しすすめるダム建設を村民の力を結集して阻止した村として、全国に名を馳せました。グリーンコープは、1999年から「木頭柚子しぼり」の企画をとおして木頭村を応援してきました。2005年の市町村合併によって、木頭村は周辺の4町村と合併し那賀町となりましたが、今なお、全国の地域おこしの最先端をいく旧木頭村の闘いの歴史と村のようすを紹介します。



徳島 県と徳島県境に位置している、98%が森林という自然豊かな地域です。そこには那賀川という日本有数の水量を湛える川の源流があり、土地の人々はその川と山々の自然に抱かれて生きてきました。また、その地域には平家の落人が流れ住み着いたと言われており、歴史的な深遠さが漂っている所でもあります。

自然破壊の最たる 国の公共事業、 ダム建設との闘い

水量豊かな那賀川源流の木頭村に細河内ダム計画が持ち上がったのが、1971年です。村のほぼすべてが水没することになる、何より木頭村の自然が破壊されることに7割の村民は反対しました。しかし、3割はダム建設容認派で村は二分され、人と人の絆さえ分断されてしまったのです。その中で村民は日々生活をしていかなければなりません。地域社会までも破壊してしまうダム建設という名の公共事業に人々は翻弄されるしかないのが実情です。ダム建設を受け入れた村

グリーンコープで取り扱っている (株)きとうむらの商品



250ml・100ml 250ml・100ml

村の再生に住民が 一致団結して取り組む

村の中でダム建設反対を叫ぶことは、生活そのものでした。従って、反対の立場を貫くためには村が自立していくほかはないと、旧木頭村は「ダムに頼らない村おこし」に自力で取り組みました。その大きな一歩として、当時の藤田恵村長（1993年当選）を代表にして1996年第3セクター（株）きとうむらを立て上げました。村にある農畜産物を財産として、自信を持って内外に発信し、木

頭村の存在をアピールする。そうやって反対運動の機運は高まっていきました。しかし、そんな村に対し、道路整備に補助金を出さないなど、国や県の報復は容赦ありませんでした。想像を絶する闘いが繰り広げられる中、1997年「ダム建設計画撤回」を勝ち取ったのでした。このニュースは日本中を駆け抜け、環境保全に取り組む団体などから賞賛の声が寄せられました。

しかし、それにもかかわらず、2001年の選挙では、国や県の補助金に頼る体質の空気に圧殺され、村の自治を守り抜いた藤田村長はわずかの差で敗北しました。その後、選挙を共に闘った村民らが結束して、村づくりに取り組んでいきました。

全国の仲間を支えられ 過疎の村が活性化

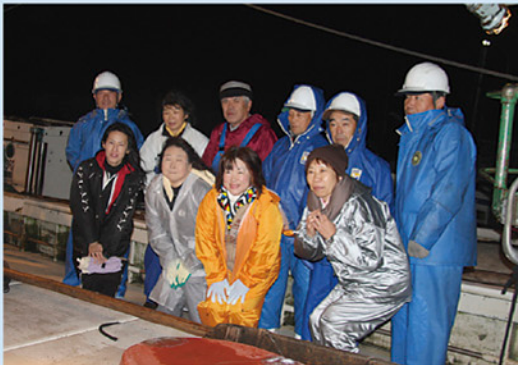
第3セクターとして稼働しはじめた（株）きとうむらでしたが、経営のあり方において紆余曲折があり、厳しい状況に直面しました。そこで、ダム建設計画撤回を成し遂げた村民が立ち上がり、株主になるなど、再建に向けて歩みはじめました。そして、1999年、

東京でエコロジー関連事業を主宰している日野雄策さんが持ち前の機動力を買われて、取締役に着任。本格的な立て直しが始まったのです。その頃グリーンコープは、食べものの安心・安全を求める仲間の団体である「らでいっしゅぽーや」の呼びかけで木頭村と出会いました。木頭村はゆずの産地として全国的にも有名な地域であったことから、「木頭柚子しぼり（500ml）」の取り扱いをはじめました。昔ながらの木製の搾り機で搾汁しただけの、ゆずの香り豊かな果汁は木頭村応援企画として組合員に浸透していったのです。2008年、「生ゆず」をはじめ、「木頭柚子醤油」「ゆずみつ」「フルーツソース」「天然はちみつ和蜂」など、取り扱う商品は8アイテムに広がりました。

ダム建設という環境破壊の最たる公共事業に、わずか1800人程の村民だけで果敢に立ち向かった旧木頭村。それによって、徳島県の、森、川、水など豊かな自然が守られたのです。そうやって守られた川は今もきれいな水を湛え、清流にしか棲まない魚が泳いでいます。一方、上流にダムが建設された川は自然の浄化能力を失ったことで汚泥が沈殿し、水生生物は生息できなくなっています。ひとつのダム建設から守られた自然は、日本の、地球の財産として、未来の子どもたちに引き継がれていくこととなります。そのために、旧木頭村の人たちを応援していきましょう。

度島訪問日記

1月30日・31日グリーンコープ共同体
理事会と商品検討委員会からの代表
5人が度島を視察訪問しました



視察の目的の一つは定置網漁の視察。しかし、出港時の午前3時の天候は北東の暴風。波が最大5mもある大荒れの天候。視察団は乗船を断念。出港を見送った



暴風の中、「第28漁協丸」は定置網のあるところまですみ、坦々と網をあげる。その時間30分程。大漁の時には多く群がるカモメが今回は少ない。残念ながら不漁だった



漁獲されたのは、ミズイカ、ヤリイカ、アジ、カマス、カワハギなど。今回の目玉は80cmもある巨大ヒラメ

度島の漁師さんたちが 獲った魚を食べようよ

～度島(長崎県平戸市)の漁業を応援することが
日本の漁業を応援することにつながります～

グリーンコープは、国産にこだわり、産直や生産奨励金の仕組みをつくるなど、日本の農業を応援する取り組みをすすめてきました。そして、衰退していく第一次産業の一つの漁業を応援する取り組みをはじめました。

この度グリーンコープは、取引メーカーである金子産業をと
おして長崎県平戸市にある度島漁協と出会い、その関係を深め
ていくことがグリーンコープ共同体理事会で確認されました。

今後グリーンコープは、度島と関係することで漁業に頑張っ
ている人たち、そして日本の漁業を応援していきます。

衰退していく日本の漁業

日本人にとって魚などの水産物は貴重な食料となっており、一人あたり年間約36kgも食べています。かつて、日本は有数の水産国でしたが、1970年頃から、世界各国が200海里を宣言。それぞれの国の水産資源を独自に管理するようになったことから、日本の遠洋漁業は大きく影響を受け衰退していききました。それに反比例するかのようにより外国からの輸入が増えてきました。そのような状況の中で日本の漁業全般に陰りが見えはじめました。漁業従事者の高齢化や後継者不足は、漁業にとって大きな打撃となっています。

海の変化にも 目を向けてみよう

海の埋め立てや護岸工事によって、沿岸の潮の流れが変わると海水が淀んだり汚れたりします。そうすると、魚が棲む水環境が悪化し、魚が産卵したり育ったりする藻がなくなります。当然魚もいなくなってしまう。このことを、度島の漁師さんは「海枯れ」と

漁業と共にある 度島の日常

度島は、長崎県平戸沖にある小さな島です。東西3.5km、南北1km、人口約1000人。そのうちの270人が、長崎県平戸漁協管内にある度島漁協のメンバーとして漁業に従事しています。その中には、隣の生月島を拠点とした金子産業の遠洋漁船福丸の乗組員として働き、その後度島の漁業を担っている人も多くいます。

表現してしまいました。過剰に獲りすぎることによって生態系を荒らしてしまい、魚が極端に少なくなってしまうこともあります。かつて、度島で大量に漁獲されていたイワシが今はまったく獲れなくなっているそうです。また、温暖化の影響なのか、魚種が南方化しているとも。度島をはじめ、漁業の世界では、魚の産卵時期や産卵場所を守るために禁漁期間や保護区域を設け、水産資源を守っています。また網の目を大きくして、小さい魚を逃がすことで乱獲を防いでいるのです。

度島漁協の主な事業は、定置網漁やイカや魚の一本釣り漁、アゴ漁、ナマコなどの針突漁、採藻、採貝などで、その水揚げ量は年間672トン(2007年度)。中でも大きな事業割合を占めるのが、大小1つずつある定置網漁です。定置網漁とは、沖合に網を施して回遊魚を捕獲するという漁の方法です。大型定置網は網の深さが水深27m以上で、度島のは長さが400m、幅が100m。小型定置網は大型の3/4分の1程度の大きさです。定



度島漁協のみなさんとグリーンコープ組合員との初めての交流会。グリーンコープからはGREEN 45号で企画した度島産のウニ・ムツ・アジの新企画(抽選システム)の注文数の高さを報告。度島の漁業を応援するグリーンコープの思いを伝えた



ウニは棲息する場所や餌の海藻によって、肉の色が違ふ。商品価値の高い一般的な色のウニもちょっと濃いめの色のウニも味は同じ

4人の海女さんが獲った ウニが グリーンコープへ

度島には4人の海女がいて、潜水漁で度島特産のウニやサザエなどを獲り、自分たちで加工しています。ウニは生息する場所や餌として食べる藻など海藻の種類によって色が違ひます。海岸に近い浅瀬にいるウニは色が黄色く、遠く沖合の海の底深い所にいるウニは茶色がかっています。味的にはどちらも劣ることはありません。しかし、市場では鮮やかな黄色のものが好まれているため、色の濃いウニは出荷できないそうです。「天然であるため、色や味は均一ではありませんが、度島のウニのおいしさはどこにも負けません」と、海女さんたちが口をそろえて言います。

そのウニの他小アジ・ムツの3アイテムがグリーンコープのカタログGREEN 45号(1/19配布)に新登場しました。限られた数しか確保できなかったため、どれも数量限定の抽選システム商品として案内されました。

度島では豊富な種類の魚介類が獲れます。それらをグリーンコープの組合員が食べていくことで「度島が漁業によって元気になってほしい」、そんな願いを込めて、度島との関係をつくっていきます。日本には度島のような島や漁村がたくさんあります。そのようにところにも度島の元気が波及するように、グリーンコープは日本の漁業を応援していきます。



40万人 組合員

食べものアンケート! 報告会

グリーンコープのこれからの食べもの運動の方向性を探るために取り組んだ「40万人組合員食べものアンケート」の報告会が、1月19日福岡市で開催されました。

第1部では、アンケート結果の分析から見えるグリーンコープの食べもの運動への理解や期待、商品の利用状況などについて、各単協の理事長やグリーンコープ共同体産直・交流委員が報告しました。

第2部では、「互恵のためのアジア民衆基金設立に向けて」や「フードマイレージの取り組みについて」、「GMOフリーゾーンに向けた取り組み」など、今後の活動に関する報告がありました。また、グリーンコープ生協くまもとから「食パンのリニューアル」、グリーンコープ生協ふくおかから「新しいマーガリン」のアピールもありました。参加した約400人の組合員にとって、今後の活動のための有意義な一日となりました。



グリーンコープ生協くまもとが取り組んでいる「食パンのリニューアル」を、楽しいパフォーマンスで紹介。これまで以上においしい食パンをめざしているようすをアピールした



グリーンコープ生協ふくおかから、現在開発中のトランス脂肪酸を抑えた「マーガリン」のアピールがあった。バターを配合するなど風味のあるマーガリンを開発するために、努力しているようすが報告された

理事長田中裕子さんからは「回収率83.1%の目標を達成することは難しいと考え、理事や委員、組合員事務局が組合員一人ひとりに電話をかけ、アンケート提出の協力をお願いしました。また、配達時に職員が声をかけを行いました。電話かけに慣れない人もいましたが、「日頃できない組合員とのコミュニケーションがとれ、よい経験になった」と感想が出されています。また、組合員歴の長い組合員はとても協力的で、目標達成のための支えとなってくれました。回収率は83.2%と目標を上回ることができました。この結果と経験を今後の活動に生かしていきます」と報告。

グリーンコープ生協おいた理事長奥田富美子さんからは「配達トラックに同乗しての声かけや電話かけ、店頭での呼びかけ、呼びかけ文を注文紙にホッチキスでとめるなど、それぞれのセンターの状況に合わせて方法を組みあわせて取り組みました。生協設立時から取り組んでいる点字コースの組合員にも呼びかけ、電話、訪問、家族の代筆、つどいへの参加などさまざまな形で協力いただきました。みなさん、自分たちの声が反映できることを喜んでいました。回収率は83.1%。目標を越えることができました」と報告がありました。

その後、各単協の理事長や産直・交流委員が項目ごとに分担してアンケートの分析報告をしました。

食べものをめぐる状況
頻発する食品偽装事件、地球温暖化や環境問題などが及ぼす漁業や農業への影響、バイオエネルギーなどの影響による飼料の高騰など、食べものをめぐる状況は、深刻さを増しています。そして、アメリカの金融危機に端を発した世界恐慌が私たちの暮らしを直撃しています。

今回の「40万人組合員食べものアンケート」は、こうしたグリーンコープの食べもの運動の確かさを多くの組合員と共に確認し、さらに前進していくために取り組みました。

アンケートをとっておて共に考える
報告会では、共同体を代表してグリーンコープ生協（長崎）理事長の高橋純子さんから「昨年の秋に取り組んだ『40万人組合員食べものアンケート』は、組合員の声を今後の私たちの食べもの運動に生かすこと、社会的にアピールすること、を目的として取り組みました。結果グリーンコープの食べもの運動の確かさを共有すると同時に、アンケート

ト調査によるコミュニケーションをとって多くの組合員と共に食べものについて考えることができました。しかも、回収率80%という高い目標でしたが、全単協80%以上を達成することができました。この数字はこれから組合員活動をすすめていく上で大きな励みとなります。2月に取り組み春のつどいでは、今日の報告会を十分に生かし、グリーンコープの食べもの運動をより多くの組合員に伝えていきたいと思います」と開会の挨拶がありました。

力を尽くして取り組む
次いで、単協での取り組みのようすを、二つの単協が代表して報告しました。グリーンコープ生協さが

最後に、産直・交流委員

回収率83.1%！みんなの力で

グリーンコープの食べもの運動がすすむ

これからも
誇りを持ってすすむ

最後に、産直・交流委員
長本河しのぶさんから、アンケート分析報告のまとめがありました。

「アンケート結果の大きな特徴は年齢や利用高に関係なく、多くの組合員が『国産であること』に関心を寄せており、グリーンコープの豚肉、牛乳、ハム、ソーセージがおいしく評価している点などです。全体をとおして、組合員はグリーンコープの食べもの運動に共感しています。自信を持って取り組み、すすめてきた結果です。寄せられた要望などについては、今後、ていねいに検討していきます」。

今回のアンケート調査とその報告会とおして、20年にわたるグリーンコープの食べもの運動の到達点を確認することができました。そして、今後さらなる深化をめざして、40万人の組合員と共に踏み出す一歩となりました。

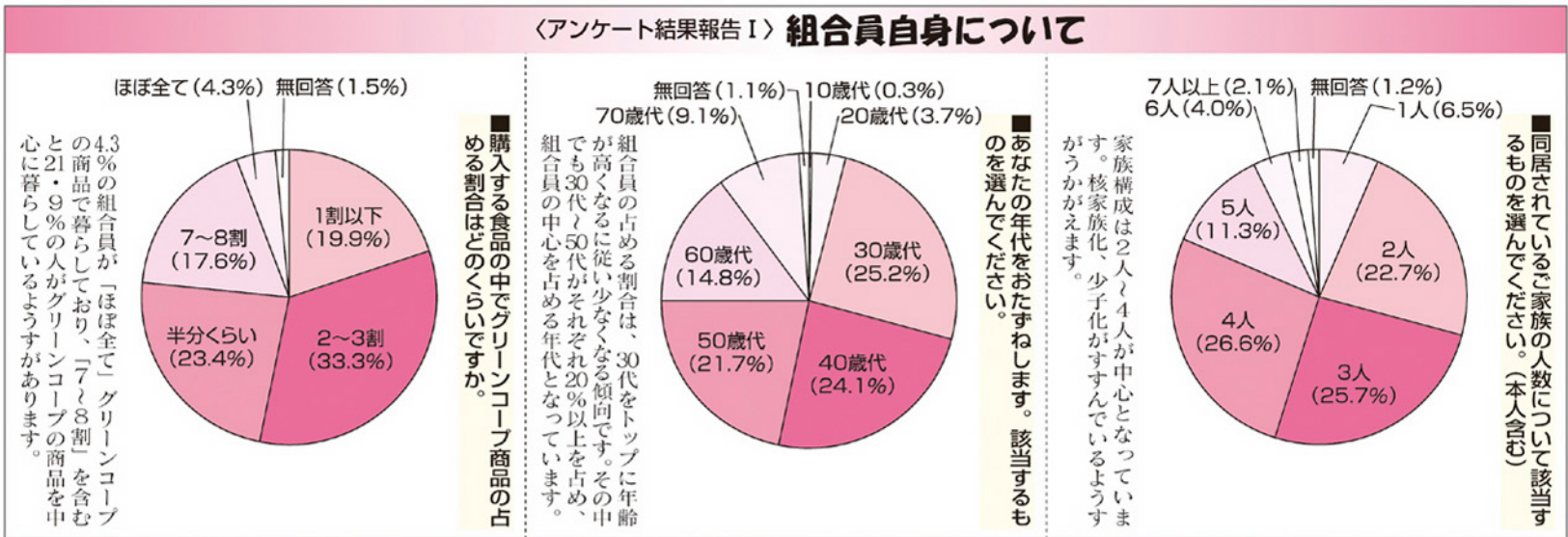
関連記事を6・7面に掲載

運動のさらなる深化にむけて

第 1 部

「アンケート」は、2008
周年記念」の取り組み
かけて、全組合員を対
31,303枚（うち店舗
（有効回答数211,76

中国製ぎょうざ事件以
購入する場所と理由な
グリーンコープの取り
なっています。年代や家
庭の質問項目も設けま
単純データをさらにク
した。主な質問項目と
「今後のグリーンコー
プ」を紹介します。
集については、3月中
なっています。



の購入先とその理由について

乳、野菜、ハム・ソーセージ、パン、
料の購入先とその理由について

乳、野菜、パン、冷凍・加工食品の上

豚肉の主な購入先とその理由 (%)

購入先	割合 (%)	理由	割合 (%)
グリーンコープ	45.7	スーパーなど	35.1
1位 安心・安全だから	70.6	価格が安い	59.4
2位 おいしい	37.3	国産だから	38.2
3位 生産地が明確	32.0	その他	19.7

＜グリーンコープの内訳 共同購入94.5%・店舗5.5%＞

購入先	割合 (%)
4.6 宅配牛乳	25.5
58.1 配達されるので便利	53.3
29.4 おいしい	31.3
16.7 びん入りだから	22.3

購入先	割合 (%)
31.0 直売所	20.2
60.1 鮮度	59.0
32.4 産地が明確	54.5
29.4 価格が安い	46.6

購入先	割合 (%)
23.2 パン屋さん	37.6
62.4 おいしさ	52.2
43.5 焼きたて	51.8
17.9 パンの種類が豊富	38.2

購入先	割合 (%)
17.7	
67.5	
36.3	
16.2	

。牛肉だけが「スーパーなど」で購入
ンコープ」での購入（回答者の33%）

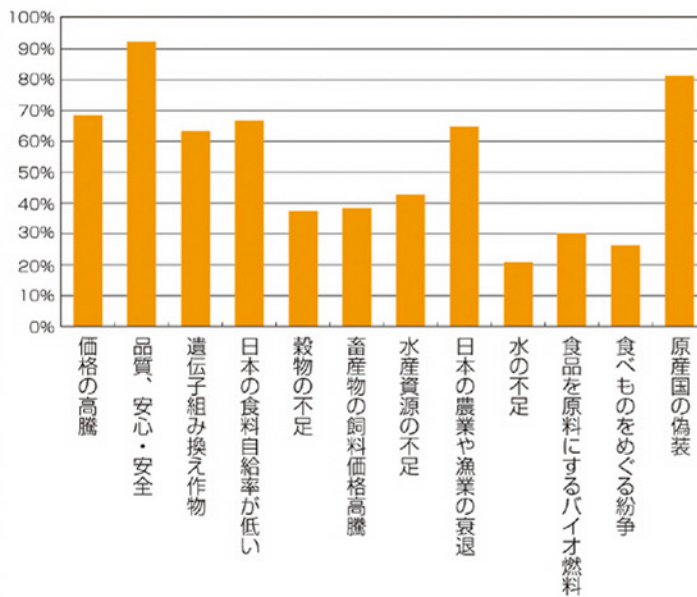
ンコープ」で購入している割合が高い

由として、「安心・安全だから」「添加
減農薬」「国産原料使用」など。スーパー
った理由であることが分かった。そん
されているのが、「びん牛乳」「豚肉
だった。

〈アンケート結果報告Ⅱ〉食べものを取り巻く状況について

■食べものに関連する心配なことについて

相次ぐ食品偽装事件や穀物不足、価格の高騰など、食べ
ものに関して心配なことが多いのが実情のようです。どの
ようなことが心配なのか、についてのアンケート結果は、
以下のグラフのとおりです。「品質（安心・安全）」を心配
している人が195,640人、原産国偽装を心配している人
が171,858人もいることが分かりました。



■グリーンコープで「これだけは購入する」と決めている食品について

さまざまな食品がある中で、「これだけは購入する」と
決めている商品を複数選んでもらったところ、上位4位は
以下のとおりです

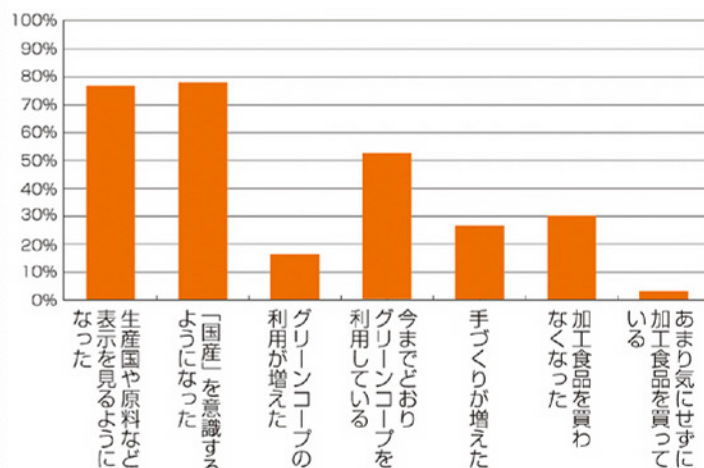
1位	たまご	117,879人
2位	牛乳	94,628人
3位	基礎調味料	72,270人
4位	冷凍・加工食品	70,127人

■価格が高い国産の畜水産物を購入するか、について

生産規模などの理由によって、外国産に比べて価格が高
い国産の畜水産物を購入するかどうかを尋ねたところ、1
55,918人の人が「価格が高くても購入する」と答えてい
ます。アンケート回答者の約74%でした。

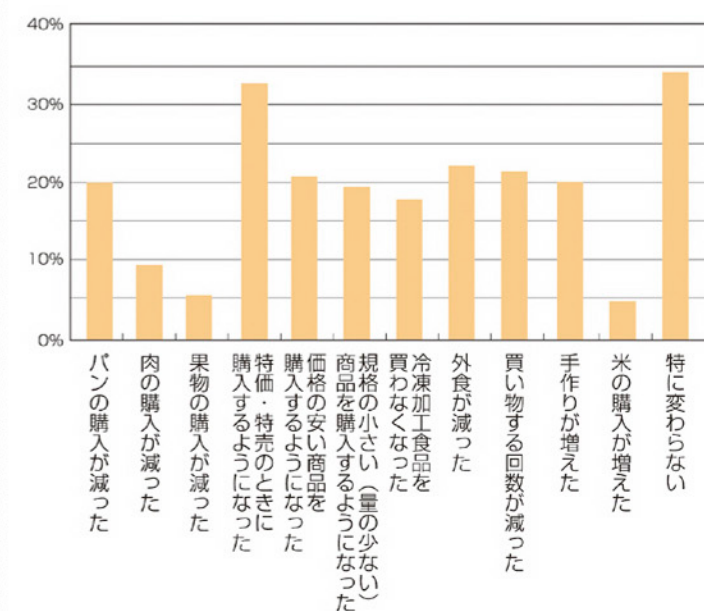
■中国製ぎょうざ事件以降食品を購入する時、変わったことについて

中国製ぎょうざ事件以降、食品を購入する時に166,511
人もの組合員が「『国産』を意識するようになった」、163,
516人が「生産国や製造者、原料などの表示を見るようにな
った」と答えています。また、「加工食品を買わなくなった」
「手作りが増えた」という人が約12万人もいることが
分かりました。



■主要穀物（トウモロコシ、大豆、小麦など）の不足や原油価格高騰による食品の値上がりを受けて食生活の中での変化について

主要穀物の高騰から食品が値上がりしたことで価格を重
視するようになり、特価・特売の時や価格の安い時に購入
するようになっていきます。一方「変わらない」と答えた人
が73,200人もいます。



40万人 組合員
食べものアンケート!

組合員
による

組合員
のための

食べもの運動

第2部



互恵のための
アジア民衆基金
設立に向けて

互恵のためのアジア民衆基金
設立発起人 行岡 良治さん

2008年11月8日～9日には「アジア民衆福岡寄り合い」国際会議が開催され、2009年11月「互恵のためのアジア民衆基金」設立に向けた準備がはじまりました。民衆交易などで国際連帯している各国の代表が集まり、「基金」設立について話しあいました。設立呼びかけ人として、グリーンコープと連帯する国内の各団体が参加しました。「互恵のためのアジア民衆基金」設立準備について、組合員に向け報告会を行いました。その記念講演として韓国の詩人金芝河（キムジハ）さんによる講演がありました。演目は「互恵（互酬）を前面に、交換を日常に、再分配を準備して」。その講演内容が難解であったという感想が多かったことから、今回の報告会で行岡さんによるていねいな解説がありました。
※講演内容については追って本紙に掲載します。



フードマイレージの
取り組み

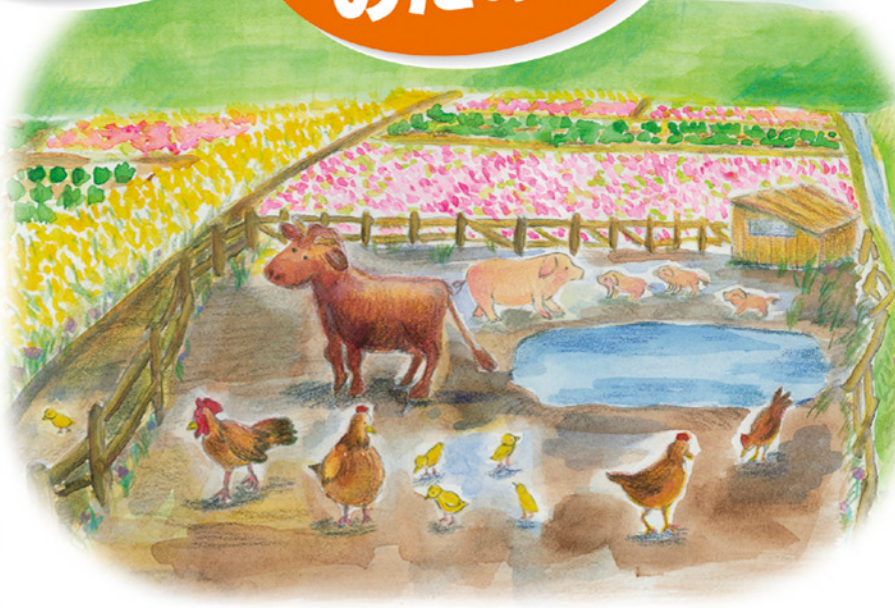
グリーンコープ連合新規事業本部
本部長 宮崎 利明さん

グリーンコープは食料自給率を高めることで日本の農業や環境を守るための取り組みをすすめています。それをさらに組合員に引き寄せるために、今年9月からフードマイレージの取り組みに着手することになっています。現在共同で取り組む国内の3団体（大地を守る会、生活クラブ、パルシステム）と共に事務局レベルで具体的な準備をすすめています。グリーンコープの担当事務局の宮崎さんから、「フードマイレージとは何か」や準備状況について報告がありました。具体的な取り組みについては、今後ていねいに案内していきます。



GMOフリーゾーン宣言に向けた
取り組みについて

グリーンコープは遺伝子組み換え反対運動に全国の仲間と連帯して取り組んでいます。その一つとして、現在、世界的に広がっているGMOフリーゾーン運動を展開しています。カタログによる「遺伝子組み換えいらない宣言」スタンプラリーや単協を中心にした「家庭菜園でGM作物はつくらない宣言」の取り組みなど具体的に身近な運動として組合員に呼びかけました。また、今年3月14日～15日には「第4回GMOフリーゾーン全国交流集会in綾町」が宮崎県綾町でグリーンコープ生協みやざき、グリーンコープかごしま生協が中心となって開催することがアピールされました。



〈アンケート結果報告Ⅳ〉グリーンコープへの理解と期待について

■たまごや豚肉、鶏肉などの畜産物の価格について

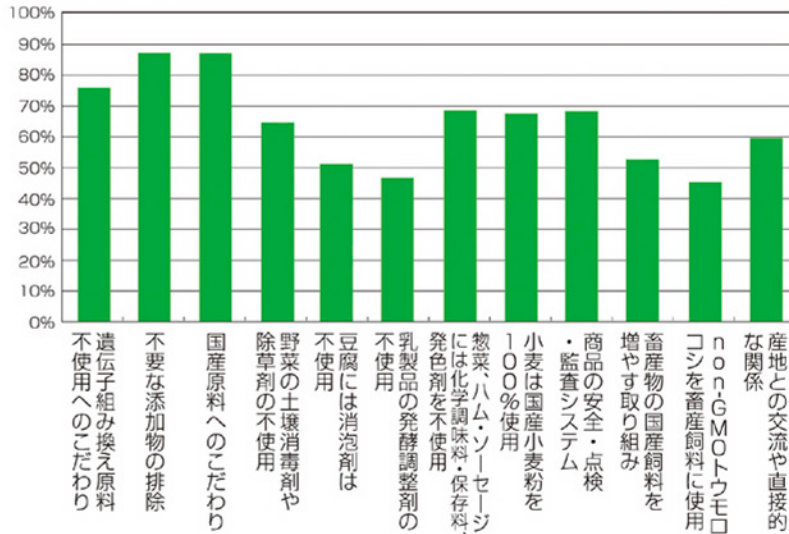
グリーンコープのたまごや豚肉、鶏肉の価格は、生産者が生産を継続できるように適正な価格にしています。それについて、アンケートに答えた半数（105,104人）の人が「高いと感じる」という結果になっています。一方、83,935人が「適正と思う」と答えています。グリーンコープ商品の利用率7～8割（年齢50代以上）の人ほど「適正と思う」割合が高いことが分かりました。

■グリーンコープがこだわっていることのうち、共感できることについて

下表にあるように、「国産へのこだわり」「不必要な添加物の排除」は87%の人が、「豆腐の消泡剤不使用」「畜産飼料のnon-GMトウモロコシ」以外の項目について回答者の5割以上が共感できるという結果です。

〈質問項目の例〉

「グリーンコープのこだわっていることで、あなたが共感できることはどれですか」の結果



■生産者を応援する取り組みへの理解について

「産直びん牛乳の生産奨励金制度」について、84,145人が「知っている」と答えています。また、自然災害などの時、生産者に助成する産直基金を知っている人が5万人以上いることも分かりました。

また、びん牛乳やたまご、米などの「予約制度」について、195,412人が「知っている」と答え、ほぼ認知されていることが分かりました。

■グリーンコープへの期待について

グリーンコープに取り組んでほしいことの上位は、「地産地消をめざす」（109,304人）、「価格を下げる」（105,706人）、「国産原料の比率を上げる」（104,275人）、「もっと安心安全にこだわる」（99,769人）など、グリーンコープへの期待はやはり「安心・安全」への期待が大きいという結果でした。

■機関紙「共生の時代」について

中国製ぎょうざ事件を受けて、グリーンコープの情報を共生の時代号外で公開しました。それに関して、「よく分った」が約40%（約8万人）、「分からない」が7%（約1万5千人）、約半数の人が「見なかった」と答えています。報告集会では、「タイトルが硬い」「文字が小さい」など、今後の改善点について指摘がありました。

「40万人組合員食べものアンケート」年度「グリーンコープ設立20周年」の一つとして、9月～10月に対象に実施しました。回収数は23,129枚、回収率は83.1%（1）でした。

アンケートは、全29項目。中身の降の意識や生活の変化、食品を製造、食べものに関することや、組合員への理解や期待について尋ねる族構成など組合員の情報についてでした。項目によっては、結果のクロス集計し、その分析も行いました。その特徴的な結果を報告します。

併せて、午後に行われた第2部の食べもの運動の進化について

なお、アンケートの結果報告は、旬頃組合員に配布されることに

〈アンケート結果報告Ⅲ〉主な食べもの

■米、豚肉、鶏肉、牛肉、たまご、牛乳

冷凍・加工食品、お菓子、基礎調味料

その中の特徴的な、米、豚肉、牛乳の3位までを表にしました。

米の主な購入先とその理由 (%)

	グリーンコープ	24.0	スーパーなど	14.6
1位	農業の使用など	73.9	価格が安い	66.2
2位	産地が明確	54.5	近くて便利	41.6
3位	配達されるので便利	36.6	産地が明確	23.9

＜グリーンコープの内訳 共同購入95.9%・店舗4.1%＞

牛乳の主な購入先とその理由

	グリーンコープ	53.5	スーパーなど	
1位	安心・安全だから	63.4	価格が安い	
2位	おいしい	46.7	その他	
3位	低温殺菌・バスターライズ殺菌だから	29.8	おいしい	

＜グリーンコープの内訳 共同購入93.7%・店舗6.3%＞

野菜の主な購入先とその理由

	グリーンコープ	21.0	スーパーなど	
1位	無農薬・減農薬	78.7	価格が安い	
2位	産地が明確	46.8	鮮度	
3位	おいしい	22.9	産地が明確	

＜グリーンコープの内訳 共同購入93.6%・店舗6.4%＞

パンの主な購入先とその理由

	グリーンコープ	26.6	スーパーなど	
1位	国産小麦粉100%だから	69.1	価格が安い	
2位	添加物が使われてない	49.1	パンの種類が豊富	
3位	おいしさ	43.2	その他	

＜グリーンコープの内訳 共同購入93.5%・店舗6.5%＞

冷凍加工食品の主な購入先とその理由

	グリーンコープ	42.8	スーパーなど	
1位	不要な添加物が使われていない	66.7	価格が安い	
2位	原材料が確か	57.9	種類が豊富	
3位	国産だから	25.7	その他	

＜グリーンコープの内訳 共同購入96.2%・店舗3.8%＞

- ・肉類では、豚肉と鶏肉が同じ傾向。豚肉の割合（約40%）が「グリーンコープ」より高い。
- ・「牛乳とたまご」、断然「グリーンコープ」（回答者の約6割）。
- ・グリーンコープ商品を購入する理由が「無農薬・減農薬」や他生協の「価格が安い」とは違。中、「おいしさ」（2位）で支持。「ハム・ソーセージ」という結果

脱原発学習会
2008年度

グリーンコープ共同体組織委員会主催

あまりにも 無謀な原発

— 私と原子力発電 —

グリーンコープは「原発は人類と共存できない」とし、原発に頼らない脱原発社会の実現をめざして活動しています。その一環として、1月26日、グリーンコープ共同体組織委員会の主催による「脱原発学習会」が福岡市で開催され、組織委員をはじめ120人が参加しました。講師は京都大学原子炉実験所の小出裕章さんでした。

講演要旨を紹介します。

夢のエネルギーと言われて「石油や石炭など、化石燃料が枯渇する状況で、原子力の持つ威力は人類生存に不可欠なものと言ってよい。電気料金は2000分の1となる。原発は大工場も必要とせず、ビルの地下に発電所になる」という内容が1955年、新聞で報じられていた。誰もが広島と長崎に落とされた原爆の悲惨さには怒りと悲しみをいだいていた。しかし、原子力の威力を「平和利用する」という言葉には、多くの人が期待を持った。

膨大に生み出される死の灰 原子力発電のしくみは、火力発電と同様、湯沸し装置にすぎない。沸した湯気でタービンを回し、それにつながった発電機で電気を起こす。問題は、原子力の燃料であるウランを燃焼（核分裂）させれば、核分裂生成物（死の灰）が生ま

れるということだ。物を燃やせば二酸化炭素が生じるように、死の灰を生み出すにウランを燃やすことはできない。広島原爆で燃えたウランは800g、牛乳パック一本分もない量だ。それが燃えて800gの死の灰が生まれ、広島の町が消滅し10万人が亡くなった。日本の標準である100万kwの原発で1年間にできる死の灰は約1000kg。1966年に稼働した東海第一号の発電所から今日まで広島型原発の100万kw分の死の灰を生み出してきたのだ。

一度と起きてはならないチェルノブイリ事故 旧ソ連チェルノブイリ原子力発電所で1986年4月26日、恐れていた大事故が起った。最新鋭の4号炉が炉心に死の灰を抱えた状態で爆発。その3〜4割の死の灰、広島原爆800kg分の灰が放出された。事故で「放射線管理区域（仕事上どうしても必要な人のみしか入れない区域）」に指定しなければならぬほどの汚染地域は日本の本州の6割に相当する。事故当時、特に汚染の激しい地域に住む約40万人が避難した。しかし、約500万人がいまだに汚染地域で暮らし、子どもを生み育てている。そんなことはあってはならない、故郷を追われることもまた悲惨だ。



講師 小出 裕章さん
東北大学原子核工学科卒業後、京都大学原子炉実験所に勤務。著書「放射能汚染の現実を超えて」、共著「原子力と共存できるか」他。

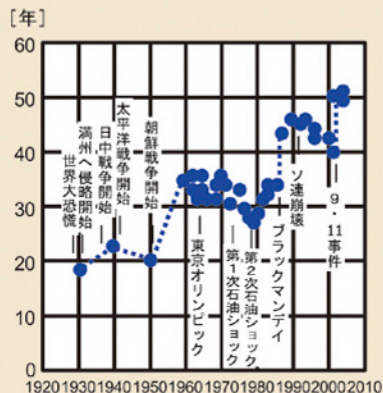
また、これまで石油の埋蔵量がすぐにでも枯渇するかのよう言われてきたことも、原子力に期待する一

原因だった。しかし、80年前には後18年しかないと言われていた石油の埋蔵量は、現在では50年となっているのだ（表1）。再生不能資源の埋蔵量の中でも、ウラン資源は石炭や石油と比べてもごく僅かである。少なくとも予測可能な未来において、化石燃料の枯渇は心配ないと考える（表2）。

「原子力は二酸化炭素を排出せず、環境にやさしいエネルギー」と、電力会社や国は盛んに宣伝している。しかし実際は、ウランの採掘から原子炉での核分裂、再処理までいくつもの過程があり、その度化石燃料を多量に必要とする。原子炉の運転、発電所の建設にも膨大な資材とエネルギーが必要で、大量の二酸化炭素を放出するのだ。国も電力会社も最近「原子力は発電時に二酸化炭素を排出しない」と語調を変えた。しかし、これも正しくはない。正しくは「核分裂現象では二酸化炭素は排出しない」と言うべきだ。

原子力発電のメリットは、原子力発電でまかなっても、火力発電所の設備利用率は7割にしかない。日本では発電所は余っている。

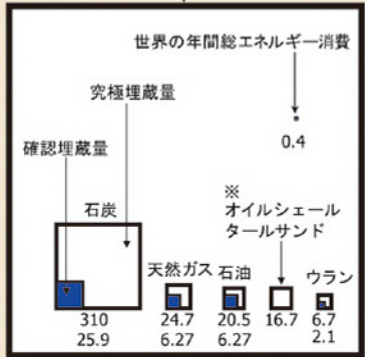
石油はあと何年もつのだろう？(表1)



石油可採年数推定値の変遷

地下に眠る資源はどれだけある？(表2)

1年毎に地球に到達する太陽エネルギー (5400)



再生不能エネルギー資源の埋蔵量
数字の単位は10¹¹ t

※オイルシェール プラントンや藻類の死骸が元となっている堆積物。石油に近い油分が産出できる
タールサンド 極めて粘性の高い鉱物油を含む砂



事故直後のチェルノブイリ4号原子炉

事故直後のチェルノブイリ4号原子炉

さらなる問題は放射性廃物 原子炉の運転に伴って生じる「低レベル放射性廃物」は、現在青森県の六ヶ所村に次々と埋め捨てられている。それを300年管理するという。

死の灰である「高レベル放射性廃物」は、100万年にわたって生命環境から隔離することになっている。そのような猛毒を地中に埋め、誰が責任を負うのか。現在の科学では、安全に管理するというシナリオすら描けていないのだ。

原発はいらない

100万kwの原発の原子炉の中では、300万kwの熱が出ている。しかし、その100万kwが電力として使用されるだけで、残りの200万kwは海に捨てられている。100万kwの原発が建つという事は、1秒間に70tの海水の温度を7度上げる温水が排出されている。あたかも川のごとくだ。そこに住む生物の生態系が変わるのは必至だ。

日本では原発がなければ電力が不足すると言われていた。しかし、実際には稼働可能な火力発電所のほとんどを止めて原発のシェアを増やしている状況がある。原発の電力をすべて火力発電でまかなっても、火力発電所の設備利用率は7割にしかない。日本では発電所は余っている。

Q. なぜ、日本はこれほど問題の多い原発をすすめるのか

- A.
- 日本の電気料金は電力会社の必要経費と利潤が満たせるように決めることと法律で定めている。電力会社の利潤は電力会社の資産で決まる。原発は膨大な資金を要し大きな資産となる。結果、日本の電気料金は世界一高い金額だ。2000年の電力の自由化で、このような放漫経営はできなくなりつつある。
 - 原発を建設する3つの巨大企業が、原子炉などを作る工場をもっており、その巨大な生産ラインを止めることができない。しかし、世界一高い電気料金によって日本ではアルミ精練（大量の電力を使う）などができず、多くの企業が潰れ、現在は国外に依存している状況。
 - 核開発の技術は核兵器の技術と同じなのだ。国は核兵器について十分意識している。
 - 疲弊した地方財政の交付金への依存もある。

原子力が未来のエネルギーとは言えないことは、自明の理だ。これから、一刻も早く、太陽エネルギーの適切な利用に方向転換しなければならない。

陣内 恭子さん

金銭教育総合研究所マネージャー・塾長。ファイナンシャルプランナーとして家計相談を受けた経験とおして、子どもの金銭教育の必要性を痛感、親子で学ぶ場づくりに取り組んでいる。グリーンコープ生協ふくおか組合員



グリーンコープ生協(島根)くらしの見直し講演会

世界恐慌が本格化し、経済が混乱、物価上昇や雇用の不安が私たちの生活に押し寄せてくる中、家計管理について関心が高まっています。

2009年1月15日島根県出雲市で、グリーンコープ生協(島根)主催の「くらしの見直し講演会」が開催され、組合員約40人が参加しました。「お金のプロ」とも言われるファイナンシャルプランナーの陣内恭子さんを講師に、安心・安全・安定した暮らしを続けるための家計管理のコツを学びました。講演内容のらくらく家計簿について紹介します。

参加者はカラーカードで講演に参加しました



グリーンコープオリジナル家計簿(陣内恭子監修)

グループで見せあってもいいように、収入と支出を分けたレフィル式にした家計簿。使い終わった通帳の口座振替と現金支出の一覧表作成から家計を推察し、生活が数字で見えてきます



これまでのような終身雇用などで個人が守られていた時代は終わりました。今は先がどうなるかわからない不安定な時代。個人の「自己責任」が問われています。このような時代だからこそ、「家計」をうまく管理し、「やりくり上手」で乗り越えていきましょう。

自己責任の時代はやりくりで差がつく

家庭でお金のことを話題にし、家計の工夫にみんなが関心を持ちましょう。

「お金」について家族と話をすることがあります。か。「お金」そして「金融」、「稼ぐ」などの話をするのは苦手という人が多いようですが、意識を変えて、夫婦や子どもと話し合ってみましょう。「お金」は家族の夢をかなえる道具です。「金融」とはそのお金を融通することですが、お金を生み出すのは「家計」です。そして家計費は稼いでくるものです。「稼ぐ」とは「仕事」のことです。社会の中で自分が持つ役割をちゃんと担っていくことができて初めて「稼ぐ」ことができるのです。

「お金」について家族と話をすることがあります。か。「お金」そして「金融」、「稼ぐ」などの話をするのは苦手という人が多いようですが、意識を変えて、夫婦や子どもと話し合ってみましょう。「お金」は家族の夢をかなえる道具です。「金融」とはそのお金を融通することですが、お金を生み出すのは「家計」です。そして家計費は稼いでくるものです。「稼ぐ」とは「仕事」のことです。社会の中で自分が持つ役割をちゃんと担っていくことができて初めて「稼ぐ」ことができるのです。

表A 引き算家計簿

・まずは現金のみをメモする習慣づけ
・予算から、使った金額を引く

毎月の予算わけ記帳(一部)		年	月
▲ 貯金		円	
▲ 固定支払い分		円	
▲ 変動支払い分		円	
▲ 予備費		円	
今月のやりくり費		円	
食費			
口座	(円)	(円)	
予算額	円	円	
週目			
予算残			

やりくりのおもしろさを知ることは楽しいことです。私自身も生協を利用することでやりくりすることを覚え、配達された食品で一週間分の献立を考えています。そうすると家計を管理できます。足りない食材をスーパーなどで買い足そうとするといふ余分なものを買ってしまいがち。また、私の家の例ですが、進学で家族の数が減ったにもかかわらず、食事を減らすことが同じで、食べ過ぎていたことに最近気づきました。このようなところを一つずつ見直す必要があります。

引き算家計簿のススメ

家計管理で役立つのが家計簿です。家計簿とは、生活費の実績を書き留め、予算と比べながら生活(お金の使い方)を探る道具です。「ほんとうに必要なものは何か」と見直すことにつながります。ものを選ぶ基準は何なのか、価格、安全性、いつのまにかブランドなどにこだわって選んでしまっていないかなど、自分の選択基準について洗い出してみよう。家計簿をつけていると、それが見えてきます。しかも、そのお金の動きを見ていくと、

生き方そのものも見えてきます。つまり、家計簿をとおして、無理や無駄を探り、生活のレベルそのものも見直していく。家計簿をつける意味がそこにあります。記帳が習慣になれば、あとは簡単です。

家計簿をつけていなくてもお金の動きが分かるものがあります。それは使い終わった銀行の通帳です。光熱費など毎月引き落とされる費目の年間支出で一覧表にするとおおよそそのお金の動きが分かります。その中の「現金」の部分を現金出納帳に書いていくと、家計簿の一部になります。月の予算を立て、その予算から使った分を引くので、あといくら使えるのかが分かります。これが引き算家計簿です。(表A)

使ったものを「夫費」、「子ども費」など費目に分けておくこともできます。細かいことは気にせず、使途不明金があってもいい。こうして誰が見ても現金の動きが分かるように「見える化」します。「ここは頑張れる」という項目を見つけて、家族にも協力してもらいましょう。

必要な貯金は先にとっておきます。お金を貯めるコツは「余った金額を」では

必要ないかなど、自分の選択基準について洗い出してみよう。家計簿をつけていると、それが見えてきます。しかも、そのお金の動きを見ていくと、

生き方そのものも見えてきます。つまり、家計簿をとおして、無理や無駄を探り、生活のレベルそのものも見直していく。家計簿をつける意味がそこにあります。記帳が習慣になれば、あとは簡単です。

表B(例)夢をかなえる家計管理! キャッシュフロー表

単位:万円

年次	1	2	3	5	6	8	9	10
	2009	2010	2011	2013	2014	2016	2017	2018
わたし	38	39	40	42	43	45	46	47
夫	40	41	42	44	45	47	48	49
長女	12	13	14	16	17	19	20	21
長男	9	10	11	13	14	16	17	18
ライフプラン								
マイホーム 長女 中学入学 長女 高校入学 長男 高校入学 長女 大学入学 長男 大学入学								
基本収入1	450	450	450	450	500	500	500	500
収入2	100	100	100	130	130	130	130	130
臨時収入						300	50	
収入合計A	550	550	550	580	630	930	680	630
基本生活費	480	480	480	480	480	480	480	480
支出2	70	100	100	120	120	250	250	250
臨時支出					50			50
収入合計B	550	580	580	600	650	730	730	780
年間収支C	0	-30	-30	-20	-20	200	-50	-150
貯蓄残高D	300	270	240	190	170	400	350	200

キャッシュフロー表で我が家の人生設計

「子ども費」など費目に分けておくこともできます。細かいことは気にせず、使途不明金があってもいい。こうして誰が見ても現金の動きが分かるように「見える化」します。「ここは頑張れる」という項目を見つけて、家族にも協力してもらいましょう。

必要ないかなど、自分の選択基準について洗い出してみよう。家計簿をつけていると、それが見えてきます。しかも、そのお金の動きを見ていくと、

必要ないかなど、自分の選択基準について洗い出してみよう。家計簿をつけていると、それが見えてきます。しかも、そのお金の動きを見ていくと、

必要ないかなど、自分の選択基準について洗い出してみよう。家計簿をつけていると、それが見えてきます。しかも、そのお金の動きを見ていくと、

必要ないかなど、自分の選択基準について洗い出してみよう。家計簿をつけていると、それが見えてきます。しかも、そのお金の動きを見ていくと、

チェルノブイリ原発事故から23年
—被災者の苦しみは今も—

1986年4月26日未明、チェルノブイリ原発で大爆発が起きました。大量の放射能が放出され、40万人以上が被災しました。

白血病やがん苦しむ被災者の医療支援などに23年間取り組んできた「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」をグリーンコープは支援してきました。

2008年度、組合員から寄せられたカンパは現地調査団と検診団の派遣や医療品、医療器具の購入などのために使われました。

今年も「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」に連帯して、支援の輪を広げていきましょう。

募金の応募方法…今年度から申し込み方法が変わっています。詳しくは今回配布のカンパ募集チラシをご覧ください。

問い合わせ先
NPO法人チェルノブイリ
医療支援ネットワーク
〒811-3102
福岡県古賀市駅東2-6-26-203
TEL 092-944-3841
FAX

E-mail jimur@cher9.to
ホームページ
http://www.cher9.to/



現地医師と日本の専門家との共同検診のようす。日本から贈られた医療機器が活躍中

共に歩んだ20年



ドンバル堂



安心・安全を求め、30年間 国産小麦パンを焼き続けた

グリーンコープはこれまで、関係する多くのメーカー・生産者との信頼をベースに食べものの安心・安全を確立させてきました。設立から20年、あるいは設立以前から共に歩んできたメーカー・生産者をとおして見えるグリーンコープを紹介します。

最終回の今号は、グリーンコープの要望に応え、安心・安全な国産小麦粉でパンを作り続けているドンバル堂取材しました。現在、め食パンのさらなるおいしさを追求し、グリーンコープ生協くまもとがリニューアルに取り組んでいます。4月カタログGREEN1号(3/16~配布)で新登場予定。リニューアルのようすを含め、難しいとされていた国産小麦でのパン作りの歴史などについて乙木社長に話を聞きました。



ドンバル堂社長 乙木 信介さん

乙 本信介さんは、ドンバル堂二代目の社長だ。初代社長である乙木さんの父親は、第二次世界大戦の時ビルマ(現ミャンマー)戦線へ赴き、九死に一生を得て帰ってきた。当時の八幡村(現北九州市八幡西区)から召集された約200人のうち、生きて帰ったのは3人。その中の一人だったという。

戦後の食糧難の頃、初代社長はいち早くパンの存在に目をつけた。その先見の明の背景には、戦地で食べものにありつけず、飢えと病気で苦しんだ辛い悲しい体験があった。最初はパンの製造とその卸業からスタート。やがて卸業から手を引き、製パン業を拡大していった。それがドンバル堂のはじまりだ。現在、グリーンコープへ供給するだけでなく、北九州市内に5店舗を持つ、地元の人々に愛される「街のパン屋さん」だ。

国産小麦でパン作りにチャレンジ

今から30年前の1978年、ドンバル堂は北九州北部生協と出会った。そのきっかけは、北部生協の専任職員が母親が主宰する料理教室に乙木さんの母親が通っていたことだった。「ほんの偶然とも思える出会いだったようですが、実は必然だったのかもしれない」と、今まで語られなかった内輪話を初めて明かしてくれた。

小さい規模の生協だったが、その理念や思いを聞いて、初代社長は「おもしろい考えだ」と直感。そこから国産小麦粉を使ったパン作りがはじまる。乙木さんが大学2年の頃のことで、当時は国産小麦粉でパンは作れないというのがパン業界の常識だった。外国産小麦に比べると、国産小麦はパンに欠かせないグルテンの含有量が少ないからだ。今でこそ国産小麦パンはもてはやされているが、当時は無謀な挑戦と言える選択だった。

グリーンコープ誕生と国産小麦パンの広がり

乙木さんは大学を卒業し、ドンバル堂に入社。初代社長と兄が事業を切り回していた。自身は、初めは洋菓子部門を担当。グリー



北海道美瑛の小麦畑とパン用小麦「春よ恋」

グリーンコープと共にたゆまぬ努力を続ける

よりよい国産小麦を求めて、生産地である北海道美瑛を訪れたこともある。小麦生産者とも出会い交流し、国産小麦のパンのためにパン用小麦の栽培をお願いした。このような消費者はもちろんな生産者、製粉業者との出会いなど、通常のパン屋の世界では考えられないことだった。

北海道訪問の際、帯広農業試験場にも行き、パン用小麦について話しあったことがある。「小麦の品種改良には10年以上かかるそうです。今思えば、あの頃から試験栽培をして改良された小麦が「春よ恋」なのかもしれないですね」。2007年に、これまで使っていた「ハルユタカ」から、新品種の国産小麦「春よ恋」に切り替わった。今ある国産のパン用小麦の中で、一番製パンに適していると言われる「春よ恋」。「吸水性がよいのでしっかりとしたパン生地ができるため、仕上がりのソフトになるのです」と乙木さん。しかも、小麦粉の風味がよく、外国産小麦のように扱いやすくパン作りに向いているのだとも。食パンが格段においしくなった。それは組合員からの支持の高さが物語っている。

リニューアルによって新食感の食パン登場!

今では、国産小麦でパンを作る技術はほぼ確立できていると言える。その技術力こそ、そこに臨む人間の職人芸だ。プラス原料となる小麦粉の質がものをいう。

ホームを失った あらゆる人たちのため「ホーム」を創る

グリーンコープ共同体 福祉委員会 学習会



奥田 知志さん

1963年滋賀県生まれ。1990年東八幡キリスト教会牧師に就任と同時に、ホームレス支援組織「北九州越冬実行委員会」に参加、1995年から代表。2000年NPO法人北九州ホームレス支援機構設立、理事長に。社会福祉法人グリーンコープ副理事長

北九州市のホームレスの数はこの4年間で約500人から約200人に減少した。自立率は93%にのぼり、さらにその後の自立継続率は94%。東京と大阪の自立率50%と自立継続率20%という数字に比べると北九州における支援活動がうまく機能していると言える。

NPO法人北九州ホームレス支援機構の20年間にわたる活動は、食糧や衣類・住宅など基礎的な支援をしながら、就労・自立にも向けてきた。それでも就労支援だけでは支えきれない高齢者や障がい者は取り残されてしまうという厳しい現実もある。

ホームレスのつらさは、「住む場所がない、食べものがない」といった物理的な状況に加え、人とのつながりを断ち切られてしまうことにある。路上に寝ていても心配してくれる人はなく、誰からも話しかけられない孤独感。さらに通るばかりの人や青少年たちによる暴力も。これに関して奥

田さんは「その加害者自身が精神的ホームレスだからではないか」と考えている。家があるのに居場所がない、親はいるのに心配してくれない。歪んで蓄積されたエネルギーは弱者へ向けられる。ホームレスと孤独な大人や青少年たちに大きな違いはないのではないかと。2007年、公的機関からの助けを借りることなく、ホームレスの自立生活援助ホーム「抱樸館」を開所。「樸」とは山から切り出されたままの原木のこと。ささくれだった原木を抱こうとすると、荒れた樹皮でけがをすることも。それでも原木は誰かの手に抱かれて運び出され、削られ、磨かれて道具となつて役に立つ日がくる。入所してくる人たちの新しい可能性を信じて「抱樸館」と名づけた。グリーンコープは今年、社会福祉法人グリーンコープを中心にして「抱樸館福岡」を作るための準備をはじめている。

多重債務に陥り、住む場所をなくした人や人生のほとんどもを刑務所で過ごしてきた人、アルコール依存症でトラブルを繰り返す人……。そして、大恐慌の中で誰もが家を、人との関係を失いかねない。その人たちに向かつて奥田さんは声をかけ続ける。「助けてほしい」と声を上げる術を持たない人のもとへ手を差し伸べ、社会の谷間で迷う人の自立のみならずその人の人生を支援する。「失敗したら、また戻ってくればいい。ここはあなたのホームなのだから」と。

3年前、ようやく野宿生活を脱し支援住宅への入居が決まったホームレス男性は部屋に入るなりつぶやいたという。「今日、私は人間に戻りました」。

世界的な大恐慌によって住む家から放り出される人々が増えています。このような中、グリーンコープ共同体福祉委員会主催でホームレスに関する学習会が開催され、23人の組合員が耳を傾けました。講師は18年前からホームレスの人たちと正面から向きあい自立支援活動を展開してきた奥田知志さん。講演をとおして見えてくるホームレス支援について紹介します。

グリーンコープがめざす

生活協同組合



グリーンコープのあゆみ (完)

新たな時代を新たなかたちで、
グリーンコープ共同体の誕生

実体経済を伴わないマネーゲームは必ずや世界経済を破綻させるという予測は、くしくも現実のものとなりました。世界は恐慌に突入したのでした。グリーンコープは、そのことを以前から認識し、できるかぎりの備えをしてきました。その集大成として、2007年9月グリーンコープ共同体を誕生させました。グリーンコープのすべての組合員、専従職員、ワーカーズが力を合わせて、人・もの・資金を一体的に活用し、互いに足らざるところを補い合ひ、培ってきた力を結集し生かします。そして、これまで取り組んできた食糧の運動をはじめ、福祉・環境などのグリーンコープ運動を守りすすめていきます。グリーンコープ共同体は、そのための怠りない準備もスタートさせていました。2008年度、グリーンコープ20周年記念の講演やイベントなどさ

まざまに取り組み、グリーンコープ運動の広がりや経営の確立に着手、組合員は40万人を越えました。この組合員の結果はこれからのグリーンコープの大きなエネルギーです。

食糧の運動の分野において、国産へのこだわりを深め、農産物や魚介類、畜産物などこれまで廃棄されていたものも無駄なく活用し、残渣も含め循環するシステム作りを目指しています。さらにフードマイレージにも取り組みます。また、民衆交易などを機軸にアジアの人々との国際連帯を強化し、「互恵のためのアジア民衆基金」の設立準備をはじめました。生活再生事業やホームレス者の自立支援など地域の人々との共助の仕組みもすすめていきます。

グリーンコープは、これからもひるむことなく四つの共生を指針に、時代を先駆け開拓していきます。

2009年1月の組合員数 **403845人** (1/27現在)

リユース リサイクル データ 2008年12月分

牛乳びん	リユースびん	トレイ	モールドバック
回収本数 916,533本 回収率 99.4%	回収本数 179,224本 回収率 47.9%	回収重量 13,905kg 回収率 50.3%	回収重量 39,710kg 回収率 105.8%

放射能汚染測定結果報告

(184) 2008年12月

放射能汚染食品測定室検査。
NDは、検出限界値 (1ベクレル/kg) 以下です。
※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計 ベクレル/kg	検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計 ベクレル/kg
※ 紅茶	インド	ND	ND	ND	※ りんご	青森県	ND	ND	ND
※ 純ココア	オランダ	ND	ND	ND	※ わかめ	三陸産	ND	ND	ND
※ コーヒー豆	エチオピア	ND	ND	ND	※ もずく	沖縄県	ND	ND	ND
※ 人参	宮崎県	ND	ND	ND	※ かつお	太平洋	ND	ND	ND
※ りんご	長野県	ND	ND	ND	※ ワイン	フランス	ND	ND	ND

報告

2008年度
fromネグロス
クリスマスキャンペーン
ありがとう

カンパ金総額
11,511,742円
(1/20現在)

今年度も11月から12月にかけて取り組んだ「fromネグロス・クリスマスキャンペーン」に組合員から多くのカンパ金が集まりました。カンパ金は、APLA/あぶらをとおして、ネグロスをはじめ、アジアの民衆の自立に向けたさまざまな活動の支援に使われます。



嫌いを返上!

言い・たい

投稿欄

私の好きなグリーンコープ商品



子どもの頃、人参が大嫌いだった私。家族の食事が終わると、まとめて全部口の中に入れ、2階の窓から吐き出したこともありました(お母さん、お隣さんごめんなさい)。その後、何とか食べられるようになった頃、グリーンコープの地区委員会に出席。そこで洗って皮をむかず調理した人参を食べ、「目からうろこ。皮があるからこんなにおいしいの?」香りも昔のまま。何だか懐かしく幸せな気分。彩りも最高!。

それからというもの、人参の注文を欠かしたことはありません。皮付きのまま千切りにし、パレスチナのオリブオイルで炒め、トマトケチャップ、塩コショウで味付けすると、2人の幼児がいる食卓からあつという間になくなります。ビタミンAが豊富で抗酸化作用もあり、冷凍食品で買わせてもらえないかと願う程、このレシピはオススメ!

大きかったり、細かったり、太かったりと、2〜4本になつて泥だらけでわが家に届く人参さん、これからは楽しみに待っているからね。

グリーンコープ生協ふくおか
山川 香奈子

投稿募集中

●400字程度 ●月切 毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

グリーンコープ

組合員
ワーカーズ
職員
リレーメッセージ

未来へつなぐ20年 私の思い

グリーンコープの20年という歴史の中を、多くの人、多くのコトが駆け抜けていきました。その一つひとつがグリーンコープの中に刻まれ、グリーンコープの成熟へとつながってきています。この一年間、さまざまな人をおしてグリーンコープの歴史をひもといていきます。

グリーンコープ誕生20周年を記念して、組合員・ワーカーズ・職員からのリレーメッセージを掲載します。



私は、子どもが生まれる前に偶然生協に出会いました。丁度、将来母になり命を育む重さについて考えはじめていた頃でした。暇に任せているような本や新聞を読みあさり、食べものや環境問題等に興味を持ち、子どもたちの未来のことに不安を抱いていました。

最初にかかわりはじめた青空市場を、自分たちではじめての方が便利ではないかと有志6人で立ち上げました。3歳と半年の子を抱えながら、青空市場を引き受けました。当時の生協は商品も少なく、野菜は根菜類のみ、パンや豆腐も自主活動で手に入れていました。自分たちが動くことで安全な物が手に入るという、「協同」を学んだ初めての経験でした。このような経験をおして組合員主権を学んだと思います。また、生協活動の中で3人の子ともや近所の子どもたちを見守ってきました。まさに「共育」でした。

グリーンコープ結成後、理事長会でこれからのグリーンコープ運動についての検討がはじまりました。駆け出しの

生協活動で出会った多くの人から、たくさんの財産と生きる力をもらった

元グリーンコープ生協（福岡）理事長
家計とくらしのワーカーズ円縁代表 吉見 やよい

理事長でしたが、みんなと熱く議論し、4人の起草メンバーにも選任され「夢ヲかたちに」としてまとめました。

あれから15年、あの時の夢が一つひとつカタチになってきました。福岡県内の連帯が後押しになり、運動と事業がひとつになることで、さらに組合員の夢が実現できるようになりました。そして設立20周年、さらなる飛躍をめざしグリーンコープ共同体が結成されました。

私は9人の仲間と2008年5月、グリーンコープ生活再生事業の一環である金銭教育や消費生活支援事業を担うワーカーズとして活動をはじめました。暮らしの中の金銭問題について、必要な知識を組合員で共有し、各人が自分らしく豊かに生きていけるようにサポートしていきます。

長い組合員活動で出会った多くの人たちからたくさんの財産と生きる力をいただきました。そして、今でもワーカーズとして活動できることに感謝しています。

最後に、グリーンコープのさらなる発展と未来を担う若い組合員みなさんにエールを送ります。誰もが安心して暮らせる地域を共につくっていきましょう。



生協活動をはじめ約四半世紀になろうとしています。

今はお年寄りに寄り添って、自分の住んでいる街に念願の「福祉センター那珂川」を開設し仲間と共に地域福祉に毎日楽しく取り組んでいます。

人生の中で「あゝあの時ああしていたら こうしていたら」と思うことが何回もありました。共に歩んできた仲間から「福祉が自分には合わない」と言っていたあなたが、今ではお年寄「命」になるなんて不思議ね」と言われ、自分でもそう思います。

那珂川町に移り住み近くのグリーンコープの班に誘われました。その班は23人の大型班。学校給食のポリプロピレン食器、町立幼稚園の民間委託などの問題があり、議会に自分たちの代理人を出すための、代理人ネットワーク運動に参加しました。代理人二期目の選挙、複数化に向かおうとし

「住んでる街を 住みたい街に」

在宅福祉ワーカーズすまいる
福祉サービスセンターくるみ南・那珂川 管理者 山中 ヤチ子

た時のこと。候補者がなかなか決まらず代理人の「鬼の目に涙」を見た時、「やつて後悔、やらずに後悔」ならばと代理人を引き受けました。町議当選後「誰でもできる代理人」をキャッチフレーズに、自分なりに4年間を過ごしました。次のローテーション時、自分も含め2人とも落選しました。多くの仲間から活動の継続を望まれ、責任をとる意味でも4年後の町議選に挑戦することを決意しました。

4年間活動を継続するため、何かしなくてはと思っていました。当時生協が勤めていた「在宅福祉ワーカーズ設立」に「これだ!」と思い、ネットメンバーとして手をあげました。それから10年、訪問事業所の管理者として福岡市南区で地域福祉を展開してきました。

昨年5月に家から歩いて3分の地に「福祉センター那珂川」を開設し、住んでる街で新たな出発をしました。

生協活動約四半世紀。夢を語りながら、今を生き、前にすすんできました。仲間と語りあいながら、ふと振り返ると、大きな花と笑顔があふれています。

みどりの地球を
みどりのままで
未来の子どもたちに
手渡したい...

本紙2008年4月号から2009年3月号を、グリーンコープ設立20周年記念キャンペーン号として、20年を遡り、その歴史を検証してきました。

そこにはグリーンコープに集う組合員や生産者・メーカーなど多くの「人」が存在し、グリーンコープ運動を創ってきたことが分かりました。「グリーンコープに発しグリーンコープを貫き、グリーンコープを駆け抜けていった」人たちから、バトンタッチされた「今」を生きる私たちが、これからの10年、20年を創り、未来への道を切り開いていくことになりました。

本紙2009年4月号からはまた、その歴史を刻んでいきます。

(共生の時代編集部)

